

授業改善書

科目名	日本文学史概論(古典)
担当者	山部 和喜

授業の概要

明治に入る前までの、日本文学の大まかな姿を捉えることを目標とする授業であった。文学に興味がある学生、自分はなぜ今感じているように感じているのか、に興味がある学生、昔の人はどのように感じてそれをどのように表現していたのか、その移り変わりについて知りたいという学生、あるいは国語の教員免許の取得を目指す学生に受講してもらうように心掛けた。「文学(史)」という流れだけではなく、それぞれの時代の文学作品の一端に触れることが出来る授業を心掛けたつもりである。88名が履修登録し、アンケートの回答者数は66名であったので、最後まで履修者数(出席者数)はさほど多いとは言えなかった。

授業の問題点

授業の導入部、および最初の上代の部分に時間を掛けすぎてしまい、最後の近世部分が駆け足となってしまったのが、最大の問題点であった。また、授業の出席カードにコメントシートを用い、学生からの質問や意見に対して、次の授業の最初に回答することを心掛けたが、その際に時間の関係で紹介したくても出来なかったものが多かったのが残念であった。後半になるに従って、それまで複製本や、影印本を見せる機会が少なくなってしまった。

授業全体の構成を検討した上で、それぞれの授業の内容を作ったつもりではあったが、前半部分に力が入りすぎてしまったのが大きな反省点であった。

授業改善の課題・方策

全体的には、ほぼ4.5点以上が多いので、さほどに問題は大きくはないと思われる。ただ、板書、映像資料についての部分が、3.84点と最も低いので、資料の見せ方等について、また板書について再検討したい。どうしても話の内容に集中してしまうと、板書が疎かになってしまう傾向があり、反省しなければならないと考えている。

その他

受講生の態度は大変に熱心であり、その点について感謝している。